

都 第 159号

平成20年10月10日

国土交通省道路局長 様

倉敷市長 伊 東 香 織



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありました件につきまして、別紙のとおり回答します。

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

岡山県倉敷市

特定重要港湾水島港及び、水島臨海工業地帯を有する倉敷市において、その物流拠点としての機能を最大限発揮させるために、広域交通網の構築が急務となっております。現在、国において実施していただいている「水島港・港湾整備事業」・「倉敷立体事業」をさらに推進していただくとともに、山陽自動車道・瀬戸中央自動車道をはじめとする高速道路の大幅な料金割引の導入について検討していただきたい。

また、地方の道路整備における予算確保に関しても下記の事項について特段のご配慮をいただきたい。

- 1 地域間格差を是正し、地方が元気になるための広域ネットワーク道路の整備を確実に進めること。
- 2 暮らしのために必要な地方の道路整備に対しては、十分な予算措置がなされること。
- 3 特に地方にとって使い勝手の良い地方道路整備臨時交付金制度の更なる拡充を図ること。
- 4 道路特定財源制度の目的から逸脱した支出・無駄な支出の根絶を図り、地方の道路財源に充てること。
- 5 暫定税率期限切れに伴い発生した地方の減収額を補填すること。

②-1 地域の現状と抱える課題

②-2 地域の目指すべき将来像

岡山県倉敷市

○現状・将来像 現在、倉敷市は、倉敷駅周辺を中心市街地として位置づけ、中心市街地活性化基本計画の策定に取り組んでいるところであるが、過去に数回にわたり市町村合併を繰り返した経緯があり、市内の各地に、地域拠点が存在する、ポリセントリック型の都市構造である。そのため、倉敷市が、倉敷駅周辺を中心に、各地域拠点と一体となって発展していくためには、地域ごとにその地域の特色を活かした施策を講じるとともに、地域間を結ぶ道路の整備が必要不可欠である。	○課題 現在の厳しい財政状況の中においては、道路整備に係る経費を、地方の財源のみでまかなうことは到底できない。 また、既存の道路及び橋梁についても、その老朽化が著しく、その補修にかかる経費は、年々増加している状況である。
---	---

広域道路交通網の構築により、倉敷市の物流拠点としての機能を最大限発揮することができ、国際競争力の強化につながる。また、地方分権が推進され、各市町が特色ある施策を講じる中、近隣市町との連携が図られる。

道路整備財源が安定的に確保できれば、必要な道路が計画的かつ確実に実施でき、地域間を結ぶ道路により、人・物の交流が活性化され、地域活力の向上につながるとともに、交通の快適性・利便性も向上する。

さらに、老朽化した道路・橋梁等の維持についても早急な対応により、市民の安全・安心な生活空間を確保できる。

着実な道路整備が倉敷市の目指す将来像である

【まち全体としての総合力を発揮する「ポリセントリック型」の都市】
づくりに寄与するものとする。

③-2-1 道路施策の重点事項（代表事例）

岡山県倉敷市

○代表事例	○現状・事業効果
・ J R 山陽本線等倉敷駅付近立体交差事業の推進	倉敷市中心部は鉄道により南北に分断されており、また踏切では慢性的な交通渋滞が発生し、都市の一体的な発展が大きく妨げられている。 本事業により、南北市街地の一本化を推進し、都市機能の強化とともに、多くの踏切を一度に除去し、交通の円滑化と安全性の向上が図られる。 本事業は、本市のまちづくり施策の中で、基幹的な事業であるにもかかわらず、現在、具体的な進捗がなされていない状況にあり、国においても、事業主体である岡山県に対し、積極的な働きかけ等、指導していただきたい。
・ 国道 2 号玉島バイパス船穂以西の 4 車線化	国道 2 号玉島バイパスは現在 2 車線で供用されており、朝夕の慢性的な渋滞により、追突事故や、渋滞を回避した車両の側道での交通死傷事故が多発している。 現在事業実施中の「倉敷立体事業」及び「玉島笠岡道路事業」と併せて、全線 4 車線化することにより、渋滞の緩和が図られるとともに、東西を結ぶ主要幹線・災害時の緊急輸送道路としての機能も向上する。
・ (都) 高砂町中島柳井原線及び (都) 総社真備船穂線の整備	本路線は、平成 17 年に合併した船穂町及び真備町を経由して、総社市へつながる主要幹線道路であり、本路線の整備により、地域間の交流が図れるとともに、総社市へアクセスにより広域的連絡道路としての機能の向上も期待できる。

③-2-2 道路施策の重点事項（代表事例）

岡山県倉敷市

○代表事例 ・ 主要地方道倉敷笠岡線の整備促進 ・ 水島港整備事業（臨港道路）の促進 ・ まちなかでの歩道・自転車道（通行帯）の整備 ・ 電線類地中化事業 ・ 生坂二日市線、堀貫線、新田上富井線、矢柄西田線、柏島道越線	○現状・事業効果 本路線は、ＪＲ山陽本線北側における唯一の東西幹線道路であるため、各地で交通渋滞が発生しており、また、通過交通の一部が住宅街の狭い生活道路や通学路にまで流入し、地域住民の日常生活に多大な支障を来している。 本路線の改良整備により、道路交通の安全確保、住民生活の向上等が図られる。 国際競争力の強化及び、物流拠点としての機能強化を目的に、現在国において実施中の事業である。 臨港道路（高梁川橋梁）の整備により、水島地区・玉島地区の連携強化とともに、平成１８年の無料化に伴い、渋滞が発生している水玉ブリッジラインの渋滞緩和が図られる。 人口減少社会の到来を見据え、都市機能を集約したコンパクトな都市づくりが進められる一方、地球温暖化対策の一つとしても、環境負荷の小さい交通体系の構築が求められている。 実現のためには、中心市街地の活性化や都心居住の推進と併せて、安全で快適に移動できる歩行空間と自転車道（通行帯）を整備し、まちなかでの歩行及び、自転車の使用を推進することが不可欠である。 電線類地中化工事の推進により、都市景観や防災機能の向上が図られるとともに、安全で快適な歩行空間が確保できる。 いずれも、市内各地域結ぶ重要な幹線であり、各地の渋滞緩和・沿線地区の活性化に寄与する。
--	---

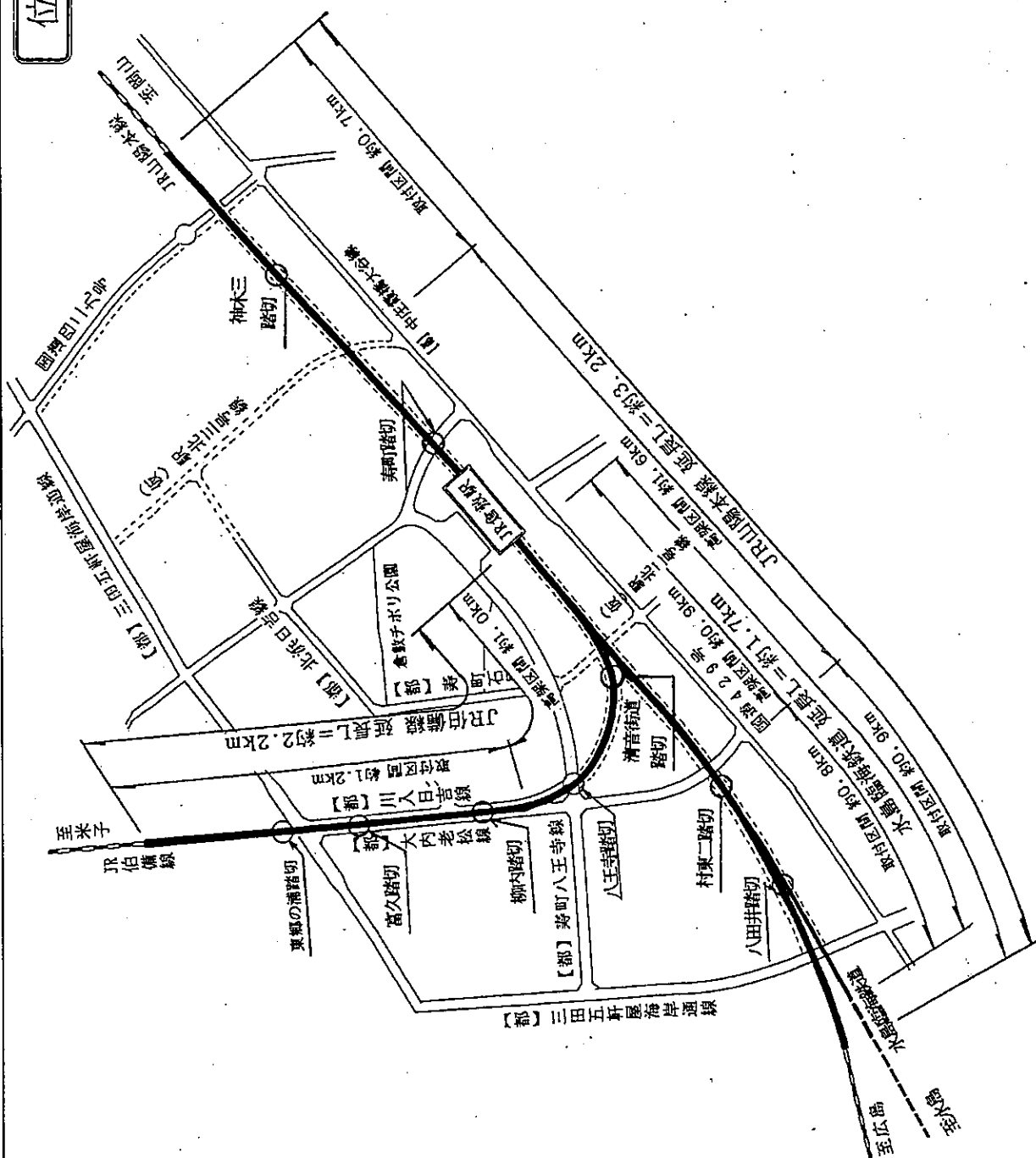
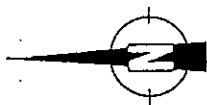
③-2-3 道路施策の重点事項（代表事例）

岡山県倉敷市

○代表事例	○現状・事業効果
・倉敷駅周辺第二土地区画整理事業	本地区は、倉敷駅に隣接しているにもかかわらず、公共施設が未整備のまま無秩序に住宅地が形成されている。 本事業により、公共施設の整備改善と都市的土地利用の転換を図り、中心市街地としてふさわしいまちづくりを推進する。さらに、区画整理内道路の整備により、都市交通の快適性、利便性の向上を図る。
・倉敷駅前東土地区画整理事業	本地区は、老朽化した木造低層住宅の密集、商住等の無秩序な混在等多数の問題を抱えている地域であり、本事業により公共施設の整備改善を行い、都市機能を強化することにより、倉敷市の顔としてふさわしい活力あるまちづくりを推進する。さらに、区画整理内道路の整備により、大規模災害時の避難経路を確保し、災害に強い都市づくりを目指す。
・阿知鶴形線外1線歩道整備事業	本路線は、「倉敷市交通バリアフリー基本構想」の中で、倉敷駅から中央病院に到る重要な歩行ルートとして位置づけられており、歩行空間を整備することにより、誰もが安心して移動できるルートの確立を図る。
・市内各鉄道駅の駅前広場・駐車場整備及び、駅へのアクセス道路の整備	少子・高齢社会において、公共交通の利用促進を図るため、誰もが利用しやすい公共交通のあり方を検討するとともに、高齢者や身体障害者等の公共交通利用者が、安全・安心かつ便利に利用できるユニバーサルデザインに配慮した駅前広場の整備や、アクセス道路の整備が必要不可欠である。 さらに、低炭素社会実現に向けた、パーク＆ライドの促進のため、駅周辺での駐車場の整備促進に対する財政的支援の充実をお願いしたい。

○代表事例 ・コミュニティバス支援策の拡充 ・国・ＪＲ事業における市内業者発注の推進	○現状・事業効果 倉敷駅周辺の中心市街地は、高齢化や空洞化により人口が減少し、活力が低下している。また、平成１４年２月に、道路運送法が改正され、バス路線の廃止が規制緩和されたことに伴い、赤字路線の廃止が続いており、公共交通による移動が困難になっている。 現在、本市において、中心市街地の活性化をはじめ、高齢者等の移動手段や観光客の利便性の向上を図るため、コミュニティバスの運行に向けての検討を行っているが、事業費の確保及び、関係各機関等との調整に苦慮している状況にあり、国において、その支援策の拡充を図っていただきたい。 地方分権が推進される中、地域経済の活性化を図るため、本市事業においては、市内業者発注を推進しているが、国やＪＲ事業においても、同様に市内業者発注を推進していただきたい。 特にＪＲ事業については、相当な市費を投入するにもかかわらず、ＪＲ指定業者しか入れない状況にあるため、改善していただきたい。
--	--

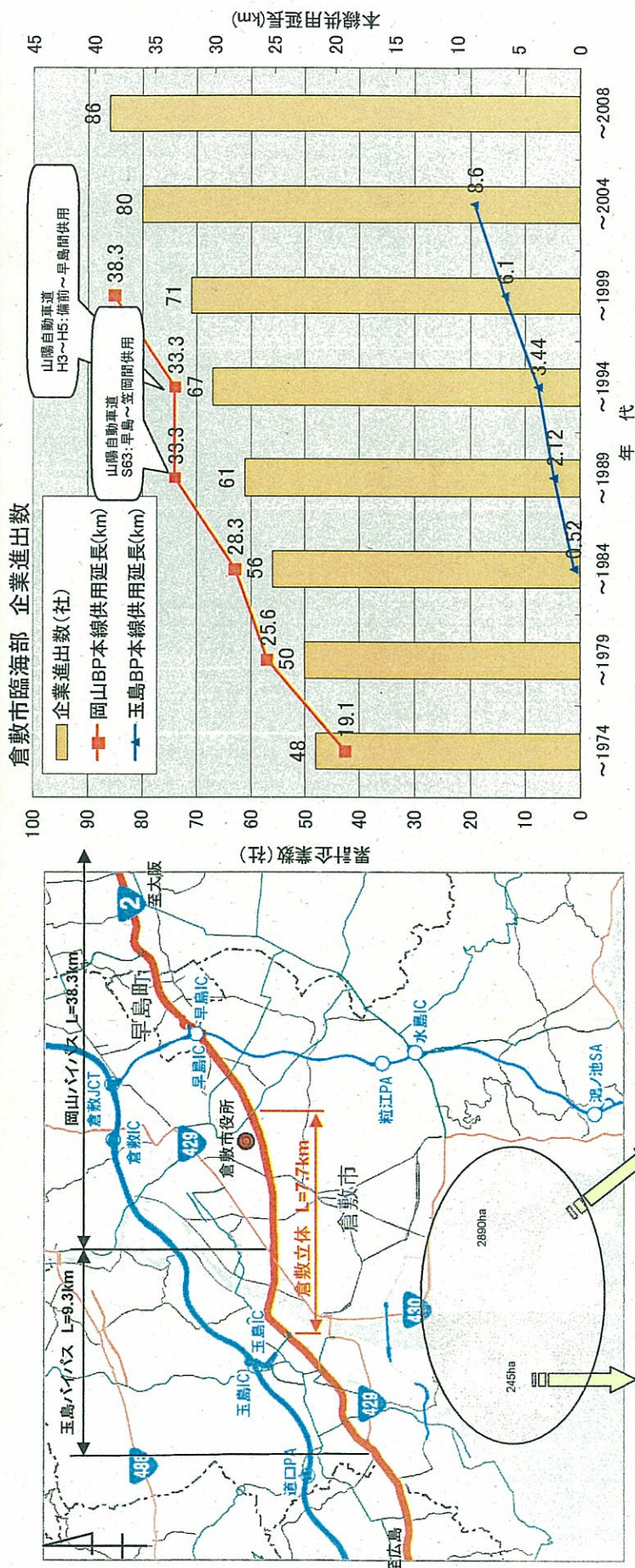
圖置位



○踏切除却箇所

国道2号の整備に伴い倉敷市臨海部工業地帯の企業進出も増加

- 岡山バイパス・玉島バイパスの整備に伴い臨海部の企業進出も増加（H17年 従業者約21,000人）
- 国道2号玉島バイパスは、特定重要港湾水島港と水島臨海工業地帯を結ぶ重要な路線であるとともに、玉島ICとも連結しており、今後さらなる交通量の増加が予想されるため、倉敷立体区間（倉敷市新田～船穂町）の早期整備が急務
- 道路交通の安全確保、高梁川大橋本線付近の渋滞緩和、沿線住民の日常生活の向上が求められている

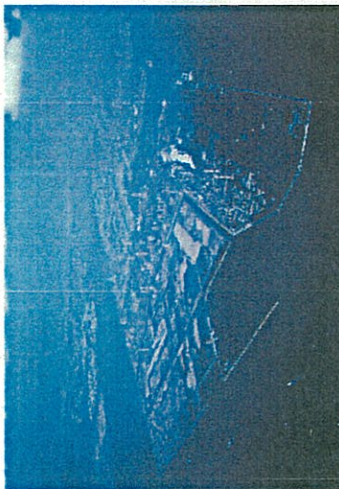


玉島ハーバーアイランド

H20.6現在 8区画約21ha分譲中



水島臨海工業地帯



高梁川大橋本線付近（上り方向）の渋滞により、沿線住民の日常生活、経済活動に大きな支障となっている。



・岡山県産業労働部、倉敷市経済局産業労働部資料を基に作成

・企業数は、資本金3,000万円以上で、従業員数10人以上の製造業と電気・ガス業の市内工場